これからの「みち」づくりは

全体の整備方針を定め 地区ごとの計画を作成する

畑山 親弘
（市民連合クラブ）

議員 都市計画道路の計画決定から60年以上経過したが、未だに未整備部分がある理由は。

建設部長 住家等の移転に係る補償や工事費が多大となり、財政面で厳しい状況のためです。また、国、県道も計画に含まれているためです。

議員 道路は市民生活に直結しており、道路事情が悪ければ災害発生時に甚大な被害につながりかねない。今後の「みち」づくりの計画は。

建設部長 限られた財源で効果的な道路の利活用を図るため、地域の実情に合った整備をします。

議員 狭隘（きょうあい）道路や袋小路の解消に向け、総合的な計画を立てる考えは。

建設部長 体系的な道路網の整備を計画的に行うため、市道幹線と生活道路を一体とした道路整備方針を、平成31年度末に定めたいと考えています。

その上で優先整備路線を選定し、緊急性や地域バランス等を考慮し、地区ごとの整備計画を作成したいと考えています。

議員 農家が汗して生産した野菜・果物・畜産等が新しい商品として付加価値化・ブランド化され、六次化産業が生まれてほしいと願っている。市は担当課を設けて努力しているが、今日まで生み出された商品数は。

副市長 昨年度は20商品が開発され、5年間で97商品が誕生しました。

議員 商品の御披露目会等では、どのような意見が寄せられているのか。

副市長 パッケージデザインや食味のよさが評判です。お土産やふるさと納税の返礼品としても好評を得ています。

議員 「十和田市ならでは」の産品として一層評価されていくものと期待しているが、今後の展望は。

副市長 関係団体の意見を聞きながら進めてきましたが、今後も市の農産物等を活用した訴求力のある商品づくりを展開し、農家所得の向上、雇用創出、地域活性化に結びつけていきます。

続々生み出される市産品

県立サッカー等球技専用スタジアムの設置要望を再検討せよ

地域活性化に向け要望を継続する

竹島勝昭
（市民連合クラブ）

議員 市は県立サッカー等球技専用スタジアム（J2適合）の設置を要望しているが、これはサッカー協会等の関係団体の合意を得た上でなければうまく進まない。例えば八戸市を本拠地とするヴァンラーレ八戸でさえ、ホームのダイハツスタジアムで観客2千人を集めるのに苦労している。J2適合の観客動員数は1万5千人から2万人になった。プロチームを有する八戸市でさえこのような状況なのに、人口が6万人余り、地元にプロチームがない当市でJ2適合のスタジアムを要望することは無理があるのではないか。当市の要望に対する県の回答はゼロ回答だ。原点に立ち返り、なぜ県立施設が欲しいのかを再検討する考えは。

副市長 プロチームがないからこそ当市に施設をつくり、そこで試合をしてもらうことによってお客さんに来てもらい、地域の活性化にもつながると考えているので、現時点では県立施設の要望について変更する考えはありません。

議員 奥入瀬渓流利活用検討委員会が策定した奥入瀬渓流ビジョンが、6月27日に県知事と十和田市長に提言された。私が最も関心を持ち、強く訴えてきたことに関しての考えが整理されており、非常に勇気づけられる内容だ。これに対する市の見解は。

副市長 奥入瀬ビジョンは、青橅山バイパス開通後の奥入瀬・十和田湖地域の目指す姿や戦略について、自然環境の保全、観光の振興、交通システムの3つの観点から検討し、とりまとめたものです。市としても、自然があってこその奥入瀬渓流と考えていますので、大切に守りながら、ビジョンに掲げる地域の目指す姿の実現に向け、官民の各関係主体とビジョンを共有し、連携しながら奥入瀬、十和田湖地域の環境保全と観光振興の両立につながる取り組みを進めたいと考えています。

素晴らしい自然を次世代に残そう